

院長ノート

病院のホームページに掲載している畑山院長のエッセイです。
月に1回くらい、脳外科診療や日常生活で感じている想いを軽妙なタッチで書き連ねています。
ご興味ありましたらQRコードから過去の内容もご覧下さい。



脳神経外科医
畑山 徹
(はたやま とおる)

1963年生まれ
青森で育ち、弘前大学を1988年に卒業
日立市の病院で河野拓司理事長に手術の
手ほどきを受け、東北各地で腕を磨いた
のち、2013年から当院に勤務
アメリカで三叉神経痛と顔面痙攣の治療
を学び、国内でも有数の実績を持つ
趣味は我流のピアノ
たまにライブハウスで演奏



vol. 64

問題なのは人ではなく立場



『院長はわかってない!』

青森にいた頃、そんな風に腹を立てて、院長室まで乗り込んだことが何度もありました。
スタッフの配置とか、最新機器の導入とか、診療の質を高めるために絶対必要!という勢いでの直訴です。
それが聞き入れてもらえないと、「なんてひどい人なんだ」とすっかり院長を悪者扱いしてました。

ところが、いざ自分が要望される立場になると、私も「ひどい人」になってしまうことが少なくありません。
もちろん、実行力の乏しさも原因なんですが、全体をうまく調整するためには、それぞれの意見を通して
ばかりはいられません。

結局、昔もどかしく思った院長の対応も「問題だったのは人ではなく立場」だったのかもしれないと思い
直しています。

何かが思う通りにしてくれないと、その人自身が悪いように感じてしまいがちです。

「もしかしたら、立場のせいで仕方なくそうしているのかもしれない」と理解するようにすれば、八つ当
たりのような感覚を減らせるように感じています。

ちなみに、治療になると話は逆で、「問題は立場ではなく人」、つまり悪くなっているのは病気ではなく病
人です。

状況によっては、表面的な問題だけでなく内面まで思いやり
をもってとらえることで、肝心なことを見失わないようにした
いと思っています。



BLOG 院長ノート

<https://mito-bhc.com/blog/blog.html>



バックナンバー

PDFでダウンロードできます

https://mito-bhc.com/blog/blog_note.html

